



平成26年度 果樹情報 第6号

(平成26年6月4日)



福島県農林水産部農業振興課

ももせん孔細菌病が多発しています。耕種的防除と薬剤散布を徹底しましょう！

1 気象概況（5月後半：果樹研究所）

5月後半の平均気温は、4半旬が15.3℃、5半旬が16.5℃で、平年より各々1.1℃、0.7℃低く、6半旬が21.2℃で平年より3.4℃高く、この期間の降水量は52.5mmで平年の103%でした。

2 土壌の水分状況（6月2日現在）

果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.9、深さ40cmが2.1、60cmが2.3で深さ20cmは乾燥状態ですが、深さ40cmと60cmは適湿状態です。

3 生育状況（果樹研究所）

(1) もも

ア 果実肥大（6月2日現在、暦日比較）

「あかつき」の縦径は37.9mmで平年比115%、側径が31.9mmで平年比123%、「ゆうぞら」の縦径は37.1mmで平年比109%、側径が28.7mmで平年比115%と各々平年より大きい状況です。

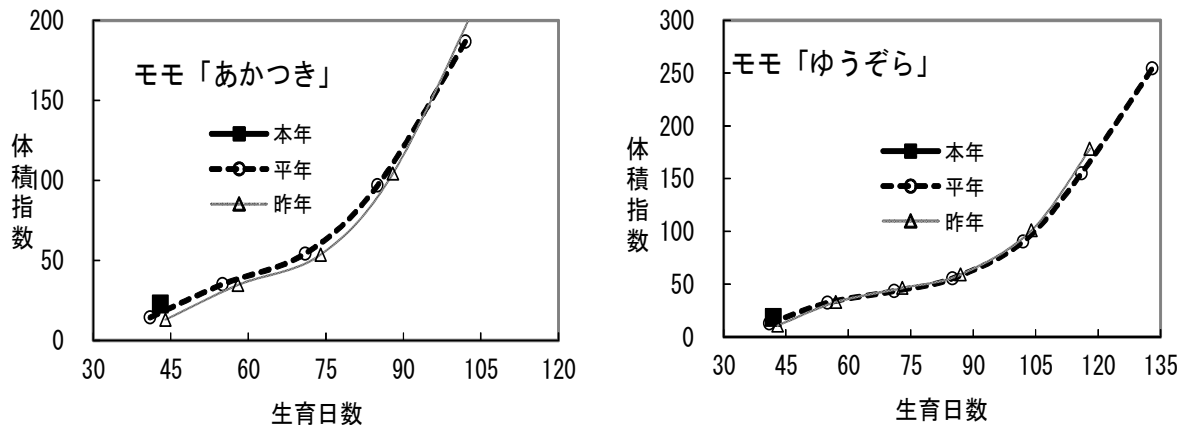


図1 ももの果実肥大

体積指数：縦径×横径×側径×3.14÷6,000

イ 新梢生長（満開後40日、品種：あかつき）

新梢長は平年比88%と短く、展葉数は平年比94%とやや少なく、葉色は平年比99%でほぼ平年並となっています。

ウ 双胚果の発生（満開後30日、品種：あかつき）

発生率は7.8%（平年8.1%）でやや少ない状況です。

エ 核障害の発生（満開後30日、品種：あかつき）

核頂部の亀裂は37%で認められ、ほぼ平年（37.5%）並の状況です。

オ 発育予測（あかつき）

本年の硬核期の開始日は6月10日頃で、平年より1日早い予測となっています。なお、現段階における収穫開始は平年より1日遅い予測となっています。

表1 ももの発育予測（6月2日現在）

品 種	硬核開始日			収穫開始日		
	本年予測	平年	平年差	本年予測	平年	平年差
あかつき	6/10	6/11	1日早い	8/3	8/2	1日遅い

注) 発育速度（DVR）モデルによる発育予測。平年は1981年～2010年の平均。

(2) なし

ア 果実肥大（6月2日現在、暦日比較）

「幸水」の縦径は23.8mmで平年比115%、横径が26.7mmで平年比117%、「豊水」の縦径は25.1mmで平年比111%、横径が26.6mmで平年比117%と各々平年より大きい状況です。

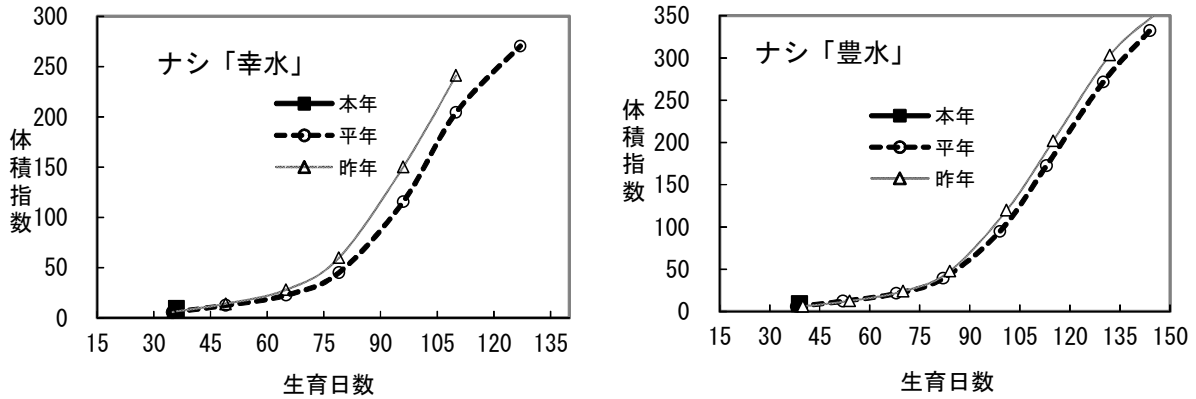


図2 なしの果実肥大

イ 新梢生長（満開後30日、品種：幸水）

予備枝新梢長は37.4cmで平年比104%とほぼ平年並、不定芽新梢長は34.5cmで平年比106%とやや長い状況です。予備枝の中間部の葉の葉色は38.8（SPAD値）で平年とほぼ同じ数値となっています。

(3) りんご

ア 果実肥大（6月2日現在、暦日比較）

「つがる」の縦径は29.6mmで平年比104%、横径が30.8mmで平年比107%、「ふじ」の縦径は29.3mmで平年比109%、横径が27.7mmで平年比114%で各々平年より大きい状況です。

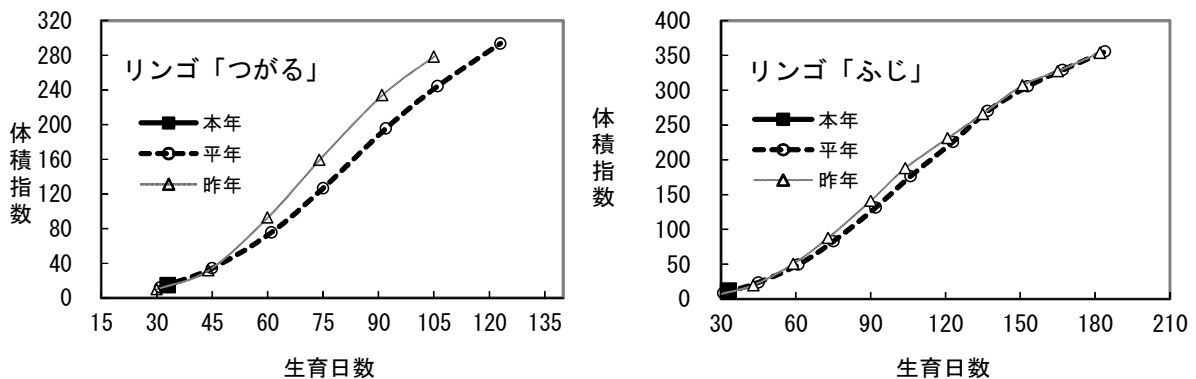


図3 りんごの果実肥大

イ 新梢生長（満開後30日、品種：ふじ）

新梢長は19.3cmで平年比105%、新梢の停止率は77%となっています。

ウ 結実状況（ふじ）

目通り付近の中心果結実率は、74%でほぼ平年並の状況ですが、花芽の充実が不安定だった上向枝を中心に結実にバラツキがある樹もみられます。

表2 りんごの結実状況

	結実果そう率 (%)			中心果結実率 (%)		
	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
つがる	100.0	46.5	83.8	94.0	42.0	94.0
ふじ	91.1	75.6	66.0	70.0	24.4	73.0

注1：平年値は2005～2010年の平均（中心果結実率は1998～2010年の平均）

注2：供試樹は、「つがる」／M.26（8年生）、「ふじ」／マルバカイドウ（49年生）。

(4) ぶどう z

ア 新梢生長（発芽後40日、品種：巨峰）

新梢長は28.8cmで平年比64%と短く、展葉数は10枚で平年比113%と多い状況です。

イ 発育予測（6月2日現在、品種：巨峰）

開花始めは5月31日で平年より6日早く、近日中に満開を迎える見込みです。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成26年5月29日発表)

今後の気温の経過は、1週目（5月31日～6月6日）は高い確率が80%、2週目（6月7日～6月13日）は高い及び平年並の確率が各々40%、3～4週目（6月14日～6月27日）は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○ 季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

4 栽培上の留意点

(1) もも

この時期は、新梢や果実の生育が旺盛になることから、着果管理や土壌の水管理等を徹底し、初期生育を促しましょう。

ア 仕上げ摘果

果実肥大に差がつく満開後40日頃から実施します。なお、本年は6月10日頃から硬核期が始まると予想（果樹研究所）されますので、この頃を目安に仕上げ摘果を終了させましょう。

仕上げ摘果で残す果実の量は、最終的に着果させる量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生状況等を見ながら加減しましょう。

イ 樹勢回復対策

樹勢が弱い樹では早めの摘果を心がけ、着果数を制限し新梢の生育を促しましょう。また、土壌が乾燥している場合は灌水を行うとともに、樹冠下マルチを適宜実施し土壌水分を確保しましょう。

ウ 新梢管理

6月中旬頃までは新梢の生育が旺盛な時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠が混みやすくなります。

樹冠内部や主枝、垂主枝の基部、側枝基部の徒長しやすい新梢等、今後、樹冠内を暗くするおそれのある新梢は、早めに摘心や夏季せん定を行いましょう。

なお、樹勢の弱い樹は、これらの管理を行わないか最小限とし、葉面積の確保により樹勢の回復を促しましょう。

(2) な し

ア 仕上げ摘果

仕上げ摘果は、満開後50日頃までに終了するよう心掛け、最終的に着果させる量の20～30%増しとなるよう着果管理を行いましょ。

イ 新梢管理

側枝基部（20～40cmの範囲）に発生した立ち枝新梢をせん除しましょ。ただし、主枝・亜主枝上から発生する新梢の数が少なく、冬季せん定時における更新枝の確保が困難な部位では、側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し更新枝として利用しましょ。

(3) りんご

ア 摘果

仕上げ摘果は満開後60日頃までに終了するよう心掛けましょ。

仕上げ摘果の程度は、「つがる」は3頂芽に1果、「ふじ」「陽光」「ジョナゴールド」等の品種は4頂芽に1果を目安に実施しましょ。

摘果に当たっては、果形や肥大状況等をよく確認し、小玉果や変形果、病虫害果等を摘果し、形質の良い果実を残しましょ。凍霜害等により結実の少ない園地では、着果数の確保を優先し、著しい不良果そうを対象に摘果は最小限に実施しましょ。

イ カルシウム剤の葉面散布（ビターピット対策）

樹勢が強い樹や着果量が少ない樹等果実が大玉になりやすい場合や、土壌の過乾燥や過湿により土壌からのカルシウムの吸収が阻害される場合にビターピットが助長されるので、このような場合は、発生防止のためにカルシウム剤の葉面散布を実施しましょ。

(4) ぶどう

樹勢が弱い樹では、できるだけ早めに摘穂を行いましょ。

今後、開花期から幼果期頃までは、花すい整形、ジベレリン処理、摘粒等、生育ステージに併せた管理作業が続きますので、各々適期を逃さないよう、計画的に実施しましょ。

なお、フルメット液剤の使用に当たっては、使用時期及び使用方法に注意しましょ。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご褐斑病、輪紋病、腐らん病

褐斑病の重要防除時期は、子のう胞子の飛散が盛んとなる6月上旬頃からです。発生が多い場合はこの時期の防除を徹底しましょ。

輪紋病は、湿度が高く気温が上昇する6月以降に感染しやすくなりますので、特にこの時期以降の防除を徹底しましょ。

また、腐らん病の発生が増加傾向にあります。枝腐らんや胴腐らんは、病患部の周囲の健全部まで5cm程度を切り取る若しくは削り取るよう心掛けましょ。

イ ももせん孔細菌病

春型枝病斑の発生量は中通り北部で「多い」状況（病虫害防除所調査）にあります。第一次伝染源の春型枝病斑や第二次伝染源の発病葉及び果実を取り除き、発生が見られる園では6月10日頃の防除を徹底するとともに、果実被害が多い園では仕上げ摘果終了後速やかに袋掛けを行いましょ。

ウ もも灰星病

灰星病の感染による花腐れが原因の枯れ枝は、成熟期において果実への伝染源となるので、見つけ次第除去し、適切に処分しましょ。

エ なし黒星病

果そう基部病斑等の罹病部位は見つけ次第除去し、適切に処分するとともに薬剤による防除を徹底しましょう。なお、防除に当たっては、散布間隔が10日以上開かないよう心掛け、この時期以降は、薬剤の散布量は10a当たり300リットル（スピードスプレーヤの場合）を遵守しましょう。

(2) 虫 害

ア ハマキムシ類

リンゴモンハマキの第1世代の防除適期は6月1半旬頃と推測されます。フェロモントラップによる予察調査を行っている場合は、誘殺盛期から10日後頃が防除適期となりますので、この時期に防除を行いましょ。

イ モモハモグリガ

第2世代の防除適期は6月2半旬頃になると推測されます。

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、これらの発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましょ。

ウ ナシヒメシンクイ

第2世代の防除適期は6月6半旬～7月2半旬頃になると推測されます。

本種の第1世代幼虫は、主にモモ等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はナシなどの果実に移行します。例年、ナシで果実被害が多い地域では、近隣のモモ園の防除も徹底しましょ。

エ カメムシ類

山間部や山沿いの園では飛来状況をよく確認し、多数の飛来が見られたる場合は速やかに防除を行いましょ。

オ モモノゴマダラノメイガ

発生が多い地域では、本種に効果のある薬剤で防除を行いましょ。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定
(平成26年5月31日現在)

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	6月1日	6月6日	6月16日	6月25日
平年並み	6月1日	6月7日	6月20日	6月30日
2℃低い	6月2日	6月9日	6月25日	7月7日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：4月25日

ナシヒメシンクイ：4月28日

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

農業総合センター（本部、果樹研究所、会津地域研究所、農業短期大学校）の生育状況を掲載していますので、参考にしてください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#tokubetsujyohou>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>